

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

June
ISSUE



June, 2022
Volume 124

「親子で探究してみませんか」②

早いもので6月になりました。先月号で西村教頭が「親子で探究してみませんか」とのタイトルで、家庭での断捨離体験を皆様にお伝えしました。今月はその第2弾をお届けしたいと存じます。

実は、以前も1度The Learnerに書かせていただいたことがあるのですが、改めましてツバメのお話しをさせていただければと存じます。

私の自宅の玄関の軒下に、ツバメが巣を作り始めたのは今から4年前の2018年のことです。私が子どものころ、祖父の家にツバメの巣がありました。親ツバメが巣で待つ雛鳥に餌をやる姿がとてもかわいくて、遊びの手を止め、よく眺めたものでした。祖父や伯父から「ツバメが巣をつくる家は繁栄すると、幸せになるともいわれているよ。」等と聞いたものですから、動物好きも手伝って「私の家にもいつか巣を作ってくれないかなあ。」と願ったものでした。

残念ながら、都会のマンションに巣を作ってくれるツバメはおらず、その後引っ越しをした先でも、ツバメは私の家には巣を作りませんでした。

大人になり、しばらく家にツバメが巣をつくる夢を忘れていたころ、ツバメが巣を作り始めたのです！わくわくし、期待を込めてツバメが赤ちゃんに餌をやる姿を楽しみにしていたのですが、その年は巣を作っただけで、ツバメが住み着くことはありませんでした。

あきらめていた次の年、ツバメが戻ってきました！今度はどうやら卵を産み、雛鳥を育てているようです。

ツバメは昔から人と共存してきた野鳥です。人が出入りする建物に巣をつくることで、天敵の猫

や蛇などから雛鳥を守っているのですが、一説によると、ツバメは最初に生まれた雛鳥の卵の殻を家主にプレゼントし、「赤ちゃんが生まれました！」とお知らせするのだそうです(うちもいただきました)。卵の殻を外に出すのは、巣をきれいに保つために異物を外へ出す性質があるからだともいわれていますが、後の卵の殻は天敵に見つからないよう巣から離れたところに捨てると聞くと、やはり家主にお知らせをしているように感じます。

また、雛鳥が親鳥から餌を受け取る際にのどが見えるくらい大きく口を開けるのですが、雛鳥の口には白い縁取りがされており、親鳥が餌を入れるさいの目印になっているようです。

雛鳥が育つ様子を観察するのは大変楽しく、「巣から落ちませんように。」「うまく飛べるようになりますように。」と心配しながら、軒下の白いたくさんのプレゼントを眺めて「掃除が大変だ。」と恨めしく思いつつ、自然から多くを学ばせてもらっています。

雛鳥が飛び立つ際には、たくさんの大人のツバメが集まり、子ども達の飛行をサポートします。きっと天敵から襲われないようにするための工夫なんですよね。「自然はよくできているなあ。」と感心します。

自然は私たちの先生です。是非、お子様と一緒に皆様も身近な自然に目を向けてみていただきたいと思います。

副校長 ロハス 亜紀



キリスト教教育 6月：思いやり June: Compassion

「どうして、それぞれが生まれ故郷の言葉を聞くのだろうか。
…彼らが私たちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

使徒言行録 2 章 8 - 11 節 (聖書協会共同訳)

キリスト教の暦では、今年の6月5日(日)はペンテコステ(聖霊降臨日)です。イエス・キリストの昇天後、弟子たちが同じ場所に集まっていると、突然「聖霊」が一人一人の上に降り、本人たちが全く知らない、覚えたことのない他国の言葉で神の御業を語り始めた。という、不思議な出来事があったとされる日です。

最近のニュース(5月5日現在)によると、ウクライナ東部で一部学校が再開され、そこでは子どもたちにロシアの国歌を聞かせたり、ロシア語を教えたりしているそうです。そして周囲にはロシア軍の車両が巡回し、学校の様子を監視しているといひます。明らかに占領地域の「ロシア化」を計っているのでしょう。

このような中、「ウクライナ聖書協会」のスタッフたちは人道支援物資と共にウクライナ語の聖書を国内の人々に配付し、その様子を日々写真や動画で報告しています。聖書を配付する理由は、「人々は肉の糧(物的支援)と霊の糧(聖書の神の言葉)の両方を必要としているから。」ということでした。事実、「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる。」(マタイによる福音書 4 章 4 節)という聖句通り、今、ウクライナの人々は切実に「神の言葉」による慰めを望んでいます(詳しくは「日本聖書協会募金部」の SNS を御覧ください)。

誰もが自分の言葉で自由に読める聖書を手にすることができるようにと、イギリスで最初の「聖書協会」が誕生したのが 1804 年のことです。以来、世界中にその土地の母語で書かれた聖書を発行する「聖書協会」が設立され、現在、「聖書協会世界連盟」(United Bible Societies)には約 150 の「聖書協会」が協力し、240 の国と地域で聖書普及の働きが為されています。私たちが学校の礼拝や宗教の時間に使用している「聖書」の発行元である「日本聖書協会」も、その一員です。この度の戦争では、当の「ウクライナ聖書協会」と連携を取りつつ、「ロシア聖書協会」「モルドバ聖書協会」など周辺地域の聖書協会がウクライナからの避難民のため活発に奉仕をし、「日本聖書協会募金部」もまた、集まった募金を「ウクライナ聖書協会」へと送っています。

異国の言語や文化を学び視野を広げることとはとても有意義ですが、それが片側からだけの押し付けになるのは決して良いことではありません。聖書の「ペンテコステ」のお話には、人々が同じ大切な神の言葉を「自分の故郷の言葉で」聞いた、という重要なメッセージがあります。たとえ身体が故郷の土地を離れても、その人の心の奥深くに根を下ろして安らぎを与えてくれるもの—それが「母語」の存在です。今後もウクライナ聖書協会の働きが神に守られ、祝福されたものとなりますよう、切に祈る者です。

ところで私は最近、通販の古書店でウクライナ語の聖書を見つけたので、一冊自分用に購入しました。ウクライナ語は全く読めませんが、少しでもウクライナの人々の気持ちに寄り添いたいと思ったからです。幸い「聖書アプリ」を用いると読めなくても音だけは聞けますので、自分がよく知っている聖書箇所を開き、そこを目で追いながらウクライナ語の朗読を楽しむことができます(アプリはもちろんウクライナ語に限らず、現在全部で 144 の原語に対応しているそうです)。何と便利な時代でしょう！

…たった今、玄関にウクライナ語聖書が届きました。それではまず、戦況下でウクライナの人々が愛読しているという、詩編 31 の朗読を聞くことにいたしましょう。

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓



<左写真>
避難場所でデバイスを用いて聖書を読む
ウクライナ人家族
(日本聖書協会募金部の Facebook より)



<上写真>4年生児童が制作した
イースター・エッグ

<お知らせ>

- ・6月の「おにぎり献金」は6月14日(火)です。感染症予防のため、お子様に献金をお持たせくださる場合は必ず封筒などに入れておいていただけますよう、お願いいたします。
- ・6月8日(水)花の日礼拝
日頃お世話になっている方々に花を贈ります。お子様に花を一輪、お持たせください(大きな花束は要りません)。

G1 同志社らしさを見つけたよ♪

礼拝の時間

「今日は日本語礼拝かな」「だったら緑色の聖書だね」—— 朝の会話です。1年生は、入学して1ヶ月と少し過ぎ、DIAのお姉さんやお兄さんたちに助けられながら小学校の生活にも慣れてきました。朝の礼拝がとても楽しみで、なかには前日から心待ちにしている人もいます。DIAのみなさんにとっても、1年生の4月の頃を思い出すと懐かしくなるのではないでしょうか。

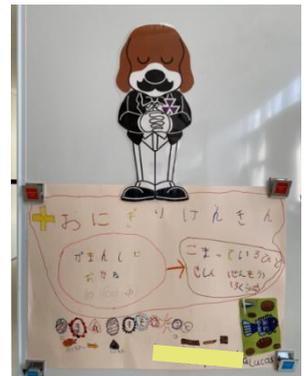
学校探険したよ

Unit 1はHow we organize ourselvesのユニットでしたので、学校探険をしながらそこで働くいろいろな人と出会い、「コミュニティー」について考えました。ライブラリ、保健室、守衛室、チャペル、サイエンスルームなどを訪れては、疑問を探してたくさんの質問をしました。校長の柳田先生にもインタビューする時間を持ちました。

柳田先生がDIAのなかでいちばん好きな場所は、チャペルだそうです。1年生も入学式からお気に入りの場所でしたので嬉しそうでした。また、どうして「校長先生」ではなく「柳田先生」のように名前で呼ぶのかという話になり、同志社の学校では新島にならって役職ではなく名前で人を呼ぶことも学びました。いろいろなところで同志社らしさがあるものですね。

はじめてのおにぎり献金

毎月第2火曜日は、おにぎり献金です。我慢して我慢した分のお金を持っていくというのは、1年生にとって初めての体験だったかもしれません。「今日はおやつのお菓子を食べないでおこう」「全部じゃなくて半分だけにしよう」「ケーキを少し減らすのでもいいかな」と、1年生なりに我慢できそうなアイデアを出して取り組みました。聖書から学び、困っている人や弱い立場の人に目を向ける、そんな大人になってほしいです。



畑で野菜を育てよう

Unit 2では、Sharing the Planetのユニットです。1年生もさっそく、トマトとパプリカとバジルを植えました。畑の雑草を抜いたり、畝を整えたり、野菜を植えて水やりをしたりしながら、がんばって育てています。

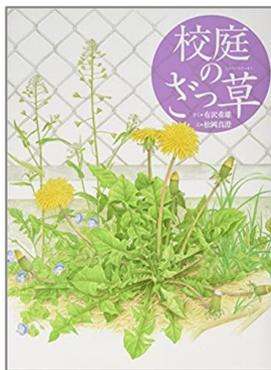
新島もアメリカ時代には、物理学、天文学、地質学、生物学といった自然科学を幅広く学びました。なかでも植物のスケッチやフィールドワークが大好きで、鉱石の採集のために熱心に出かけていたと聞いていますので、子どもたちにもしっかりと自然の観察をしてほしいです。収穫がこれから楽しみです。きっと新島も、紫色のパプリカを見て驚くことでしょう！



からのおしらせ

6月のおすすめ～生き物の本～

あたたかくなり、色々な生き物を見かけるようになりました。DIAの畑には、学年ごとに植えた様々な植物が並んでいます。外に遊びに行くと、蝶やバッタなど、さまざまな昆虫にも出会うことが多くなりました。今月は生き物をテーマに、おすすめの本をいくつか紹介します。外で生き物と出会ったら、何をしているのかじっと見てみるのも面白いかもしれませんね。



ぎっ草の花は小さい花。でも、花だんの花にまけない美しさです。あなたもぎっ草の名前を知って、友だちになりませんか。学校や道ばたで見かける身近なぎっ草を、きれいなイラストで紹介しています。「校庭のぎっ草」有沢 重雄(著), 松岡 真澄(イラスト)



ぎっ草を観察した後は、こんな木はいかが？なにしろ「ぶた」がなるのです。鈴なりです。そんな木が出てくるなんて、どんなお話でしょう？それは読んでのお楽しみ。とっても笑える、オオカミとぶたのなる木のお話です。「ぶたのたね」佐々木 マキ(著)

猟師に子どもを殺された母トラが、人間を憎しみながらも、小さく弱いものを愛する気持ちを忘れなかった心ゆさぶられる迫力ある絵本。トラに育てられたウェン王子はどんな大人に成長していくのか。母トラの愛情と、ダイナミックな水墨画の挿絵に心打たれます。この本は、ぜひ親子で読んでもらいたい一冊です。「ウェン王子とトラ」チェンジャンホン(著), 平岡 敦(翻訳)



6月の主な行事・予定

1	水	委員会・内科検診 (G1・G5)
2	木	歯科検診
3	金	
4	土	私小連音楽会 (G4)
5	日	
6	月	Unit2 (week 2)
7	火	G2 校外学習 (Biwako Museum)
8	水	花の日礼拝 G3 校外学習 (昆虫博物館) 内科検診 (G4・G6)
9	木	Swimming
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	Unit2 (week 3)
14	火	内科検診 (G2・G3) G2 校外学習 (Yamashiro Park). G5 中学校進学保護者説明会
15	水	クラブ活動
16	木	Swimming
17	金	
18	土	第2回学校説明会
19	日	
20	月	Unit2 (week 4)
21	火	
22	水	
23	木	Swimming
24	金	G4 校外学習 (Biwako Museum)
25	土	
26	日	
27	月	Unit2 (week 5)
28	火	G6 進学カンファレンス
29	水	午前授業
30	木	G6 進学カンファレンス Swimming

7月の主な行事・予定

14日~19日 学期末カンファレンス (希望者のみ)
20日 終業礼拝 (午前授業)